新任学芸員からのご挨拶

岩浪　創

自己紹介

令和 6 年 4月より配属となりました、岩浪創と申します。植物分野の担当で、特にシダとコケを専門としています。

来歴とこれまでの研究について

私は埼玉県飯能市の山あいの地域出身で、近所の山や川で遊ぶうちに生き物が大好きになりました。現在の専門である植物はもちろん、生き物全般に興味があります。

大学時代はツチガエル※というカエルについて研究していました。国内に生息するカエル類の多くは、卵から孵化した年内にオタマジャクシを経て成体（いわゆるカエル）になるのですが、ツチガエルの場合、多くの個体がオタマジャクシのまま冬を越して翌年以降に成体になるという、少し変わった生態を持っています。また、渓流に棲むカジカガエルのように多くのカエル類では生息環境が限定されるのに対し、ツチガエルは水田、池、渓流など様々な水辺環境に生息します。こうした特異性に着目し、生息場所の水温や流速の違いによって、オタマジャクシの体の形や成長速度がどれほど変化するのかを研究していました。

また、スカシヒロバカゲロウという少しマイナーな昆虫についても研究していました。本種の幼虫は、薄黒いイモムシの頭部に 2 本の角をつけたような変わった姿をしており、水際の苔むした倒木の表面などに生息しています。研究の結果、幼虫が天敵に襲われた際、尾部の先から無色で臭いのある液体を天敵めがけて噴射して、被食を免れていることを発見しました。この行動は水陸両方の天敵に対して有効だったのですが、昆虫を対象とした先行研究でこのような例はほぼ知られておらず、非常に稀な行動であることが分かりました。野外でたまたま見つけた幼虫を手に取ったところ、臭い！と気付いてこの発見につながりました。ふとした出合いから思いもよらぬ発見に繋がるのが、野外調査の醍醐味だと感じています。

植物への興味

小学生の頃から近所で野生の植物を観察しており、車で調査するようになってからは、調査範囲を県内全域に広げました。こうした活動の中で、これまで県内で分布記録の無かったアオフタバラン、ヌリトラノオ、イズセンリョウ、ホンゴウソウという 4 種の生育を発見することができました。特に後者 3 種は、西日本に分布の中心を置く暖地性の植物であり、埼玉県にも分布しているのか！と見つけた時にはとても興奮しました。このような経験を通して県内の植物相の豊かさを実感するとともに、埼玉の植物をもっと詳しく調べたいと強く思うようになりました。現在は、暖地性のシダ植物が県内にどれほど分布するのかに興味があり、日々調査を続けています。

おわりに

地元埼玉の自然に学芸員という立場で関わることができ、大変嬉しく思っています。今後も県内の自然に関する調査・研究活動に積極的に取り組んでいくとともに、埼玉の自然の豊かさやそこに棲む生物たちの魅力を、皆様に分かりやすく発信していくことができればと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

写真．埼玉県新産種のヌリトラノオ

※関東及び東北太平洋側に分布する個体群は遺伝的に特異的であることが分かり、2022 年に新種「ムカシツチガエル」として記載されました。

（いわなみ　つくる・学芸員）